

平成19年度第7回 公立大学法人熊本県立大学教育研究会議
議 事 録

日 時：平成19年10月23日(火)午前11時～午前11時50分

場 所：公立大学法人熊本県立大学 大会議室

出席：学長 米澤和彦
副学長 古賀 実
事務局長 角田岩男
文学部長 三木悦三
環境共生学部長 大和田紘一
総合管理学部長 松野了二
学術情報メディアセンター長 松岡 泰
委員 河原畑 廣
委員 源島真一郎

欠席：委員 坂本元子

オブザーバー：文学研究科長 半藤英明、アドミニストレーション研究科長 永尾孝雄、
環境共生学部准教授 辻原万規彦

事務局：豊田事務局次長、手島総務課長、稲葉企画調整室長、井上教務入試課長、鉄戸学
生支援課長、田中学術情報メディアセンター事務長、安達入試班長、枝國主幹、元島主幹、
林参事、郡山参事

1 開会(進行：豊田事務局次長)

2 学長挨拶

3 議題(議長：米澤学長)

(1) 審議事項

平成20年度入学者選抜における合格者決定について

・環境共生学部環境資源学科、居住環境学科自己推薦型入試分

大和田環境共生学部長から、資料1-1及び資料1-2(会議後回収)に基づき、「環境資源学科自己推薦型入試では、定員4名に対し、22名が志願、受験した。試験は『環境に関する小論文』100点、面接試験(小論文に関する口頭試問を含む)100点の合計200点満点で行った。上位4名を合格としたい。居住環境学科自己推薦型入試では定員4名に対し、18名が志願、受験した。試験は事前に与えられた特定のテーマに関するプレゼンテーション及びその内容に関する質疑応答を含めた面接試験で100点満点で行った。4位と5位の差が僅差であり、5位までの上位7名を合格としたい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり議決した。

委員から、居住環境学科の試験科目について、1試験のみの100点満点であるが、試験内容がプレゼンテーションと面接ということであれば、分けて点を付けるということも検討していいのではないかとの発言があった。

また、委員から、「定員4名に対し、7名を合格とした場合、他の選抜試験での合格者数はどのようになるのか。」との質問があり、事務局から、「定員は選抜区分毎に設けてあるため、自己推薦型入試で多く合格とした分を他の選抜区分で減らすことはない。」との回答があった。

・大学院文学研究科(修士課程)秋季募集分

半藤文学研究科長から、資料2-1及び資料2-2(会議後回収)に基づき、

「日本語日本文学専攻では、秋季募集の定員3名に対し、6名が志願、受験した。6名全員が合格基準である総点の6割以上に達しており、合格としたい。内訳は、次のとおりである。一般選抜に3名が志願、受験した。専門100点、面接30点の合計130点満点で試験を行い、3名とも合格基準を満たしている。専門職業人特別選抜では、2名が志願、受験した。面接試験300点満点の試験で、2名とも合格基準を満たしている。シニア特別選抜に1名が志願、受験した。口頭試問200点、面接300点の合計500点満点で試験を行い、合格基準を満たしている。

英語英米文学専攻では、秋季募集の定員3名に対し、専門職業人特別選抜に1名が志願、受験した。面接試験300点満点の試験で、当該受験者は合格基準である総点の6割以上に達しており、合格としたい。」と説明があった。

審議の結果、案のとおり議決した。

・大学院アドミニストレーション研究科（博士前期課程）秋季募集分

永尾アドミニストレーション研究科長から、資料3-1及び資料3-2（会議後回収）に基づき、「秋季募集及び春季募集合わせて20名の定員に対して、志願、受験した11名のうち総得点が合格基準である総点の6割以上に達している10名を合格としたい。内訳は、次のとおりである。一般選抜に3名が志願、受験した。英語100点、専門200点、面接200点の合計500点満点で試験を行い、合格基準を満たしている上位2名を合格としたい。社会人特別選抜では、7名が志願、受験した。面接試験400点満点で試験を行い、7名全員が合格基準を満たしている。外国人留学生特別選抜では、1名が志願、受験した。小論文（日本語能力）200点、面接400点の合計600点満点で試験を行い、当該受験者は合格基準を満たしている。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり議決した。

（2）報告事項

平成20年度入学者（自己推薦型入試、推薦入試）を対象とした入学前教育の実施について

事務局から、資料4に基づき、平成20年度入学者（自己推薦型入試、推薦入試）を対象とした入学前教育の実施について、「昨年度、環境共生学部の平成19年度推薦入試合格者を対象に試験的に実施した入学前教育を、今年度は、全学的に自己推薦型入試及び推薦入試の合格者を対象に実施する。入学時までの学習意欲の継続及びさらなる学力の向上のため、また高大連携の視点から、各学科単位で、プレエントランス講座、入学までの学習支援等を行う予定である。」との報告があった。

4 閉会